スポーツ川越

発行　川越市体育協会

五十周年に感謝し継承から創造へ

川越市体育協会会長　関口正鑠

「体育協会創立五十周年記念事業」も、多くの方々の御支援又関係者の御尽力により平成十年一月二十四日の記念式典、講演会、祝賀会を最後にすべて終了することができました。ありがとうございました。

五十年という節目を一つの区切りとして、多くの先輩の築きあげた誇りある川越市体育協会の伝統をより一層輝かしいものに継承していかなければなりません。伝統の継承とは、先人の残した成果に追従することだけでなく、その功績を讃えつつ新しく創造することによって継承されるのではないでしょうか。

大きく変動する時代の流れのなかで新しいニーズにどう対応していくのか。考えなければならないことは、先ず意識の改革ではないでしょうか。現在スポーツに対する考え方は、大きく二つに分けることができると思います。

（一）「競技スポーツ」について

長野冬季オリンピックで目の当たり見た各選手の熱戦や敢闘ぶりにスポーツのドラマ性、競技スポーツの魅力に日本中が歓喜の輪につつまれました。益々記録や勝利の追求に走り、プロ化の方向に進む「競技スポーツ」、こうした技術や体力に限りなく磨きをかけて競う高度な選手の育成には、新しい発想によるシステムの開発が必要ではないかと考えます。

（二）「生涯スポーツ」について

スポーツ＝遊技という考え方、遊技を遊びと考えますと遊びは楽しいものでなければならない。遊びのなかに勝ち負け、競技性、競争を加えることによって楽しさが一層増加するという、勝つという価値だけでなくチームワークや人と人とのつながり、協調とか連帯に楽しさを見いだしていく、競争よりは協調を、勝った負けたから連帯と友情へ、勝利至上主義から愛と平和へ、こうした競技スポーツとは異なったスポーツ観、「生涯スポーツ」を進めていくうえでは先ずこうした意識の改革が必要ではないかと考えます。

体育協会が新しい時代のニーズに対応していくために、自主自立の基本的問題をはじめ意識の改革をはかり体制体質の再構築を進め所属団体の自主活動の活性化に、強いては市民のスポーツ振興に役立つ、より強固なスポーツ関係の統括団体としての役目を果たしていかなえればならないと考えます。

50周年記念事業紹介

スポーツ健康都市をめざして！　陳情

川越市体育協会創立五十周年記念事業委員会は、会議を重ね、創立五十周年にふさわしい行事・事業はなにかを検討した結果、

・記念式典後のスポーツ講演会講師選定

・市民体育祭の開催に当たって、各連盟ごとに特別企画を計画していただく

・川越市に「スポーツ健康都市宣言」をしていただく陳情運動の展開

等が決まりました。

その中で、陳情書提出の意義のみを簡単に報告させていただきます。

陳情書提出の意義

県内多くの市町村が、各種都市宣言を行っておりますが、川越市は宣言を行っておりません。川越市体育協会創立五十周年、並びに、市制施行七十五周年を機会に、「スポーツ健康都市宣言」するよう陳情することは意義あると思います。

☆　陳情署名するこの機会に川越市における体育協会の存在価値を市民に強くアピールしたい。

☆　加盟二十九団体が総力を挙げて市民と対話する中で署名運動することにより、スポーツの文化的意義を理解していただき、二十一世紀への展望にたった川越市の市民スポーツの在り方を共に考え、市民に親しまれる市民スポーツを普及したい。

☆　市民、各人がスポーツライフを定め、自らの健康の保持増進を図ることによって、医療費、保険料の負担軽減を図りたい。

以上の意義を踏まえ、昨年七月に体育協会加盟団体が署名運動を展開し、短い期間ではありましたが、十二月末までに市民三四、八九三名の署名をいただきました。

そこで、一月十六日、関口体育協会会長を署名代表者として、舟橋川越市長さん、並びに、石川市議会議長さんに陳情書を提出いたしました。

市長に陳情する

市議会議長に陳情する

こどもの日野球教室

平成九年五月五日、こどもの日に日本プロ野球OBクラブ主催による第三回全国少年野球教室が川越市体育協会創立五十周年を記念し、市営初雁球場において開催されました。これは、同クラブにより全国四十七都道府県を会場に毎年開催されるもので、本市においては元読売巨人軍の国松彰氏を校長に、地元南古谷在住の巨人軍OB大竹憲治氏等五名の講師を迎えました。

開催を受けるに当たり、参加者の募集を川越市スポーツ少年団登録の野球単位団と各小学校を通して行いました。

連休の最終日のうえに、OBクラブとの細部の詰めに手間取り募集が遅れたことで、参加者数を心配いたしましたが、小学生二百三名、指導者三十八名の参加を得る事ができました。当日は、天候にも恵まれ、二百三名の子供達が、ランニング、キャッチボール、フィールディング、バッティングと五名の講師のもと、五班に分かれ約二時間、熱意の込った指導を受けました。

指導を受けるスポーツ少年団団員は、より深い野球知識と、より高度な野球を経験した指導を受け、改めて野球の楽しさと難しさを感じたと思います。チームに属さず参加した子供達は、力一杯走ること、投げること、バットを振り回すことで野球の楽しさの一端と、汗をかくことの気持ちよさを体験する場でもありました。

おこがましいとは思いますが、野球の指導は繰り返しです。野球教室でどんなにすばらしい指導を受けても大半の子供達は、明日になれば忘れてしまいます。

少年野球教室は、言葉の通り子供達のために開催される行事ですが、それを生かした指導を継続していくのが、子供達の属するチームの指導者の存在です。『子供野球教室』は、指導者講習会でもありました。

山田バリアンツの関沼幸一郎君の「今日、学んだ事をこれからの試合に生かしたいと思います。」というお礼の言葉で教室が締めくくられました。

第50回市民体育祭

川越市市制施行七十五周年・川越市体育協会創立五十周年記念となる平成九年度第五十回市民体育祭は、八月十日の陸上を皮切りに、二月二十二日のスキーをもって全二十九種目が終了しました。

総合開会式

本年度も昨年同様に、九月十四日、スポーツ少年団の体育祭と合同開催されました。前日の降雨により、当日は、総合体育館での開催となりました。

二十九団体・四四八名の力強い入場行進、そして、大久原教育長の開会宣言、舟橋市長のあいさつの後、ホスト団体のレクリエーション協会代表による選手宣誓が行われました。

総合開会式　選手宣誓

デモンストレーション種目として、綱引きも行われ、熱戦が繰り広げられました。

市民体育祭

本年度の市民体育祭参加者数は、二四、二五八名で、昨年度よりも三六九名の増加となりました。

これは、昨年渇水のため中止された水泳競技が開催されたことが大きな理由ですが、ゲートボール、サッカー、バレーボール等の競技においても増加がみられました。

過去5年間の参加状況（市民体育祭）	
平成9年度	24,258名
平成8年度	23,889名
平成7年度	25,074名
平成6年度	21,496名
平成5年度	22,115名

町内体育祭

スポーツの秋、九月から十一月にかけて、各地区で小・中学校を会場に実施されました。

・実施自治会　一七五自治会
・会場数　三十会場
・全参加者数　三八、二九六名

平成七年度から減少傾向でしたが、今年度は四千百名程激減してしまいました。減少の原因としては、児童生徒数の減少・悪天候による延期等が一因と考えられます。

健康で明るく豊かな市民生活をめざし、今後も生涯スポーツの一層の振興を図るために、市民体育祭が川越市民のスポーツの祭典として定着できるように努めていきたいと思います。

過去5年間の参加状況（町内体育祭）	
平成9年度	38,296名
平成8年度	42,417名
平成7年度	43,292名
平成6年度	43,085名
平成5年度	42,963名

記念大会特別企画

市制施行七十五周年・体育協会創立五十周年記念大会となる本年度の市民体育祭では、各競技種目ごとに特別な企画が実施されました。

主管する各連盟・協会でそれぞれ工夫を凝らし、例年にも増して盛大に開催されました。ここでは、その一例を紹介します。

○小学校陸上の部

・期日　十月十一日
・会場　陸上競技場
・特別企画　中学校の陸上部を招待し、リレーの模範演技を観戦しました。バトンの受渡し方、走るフォーム等を目の当たりにし、イメージ化や意欲の向上が図られ、意義深い取り組みとなりました。

○ソフトボールの部

・期日　九月七日・十一月十六日
・会場　入間大橋運動公園
・特別企画　今年度は、ソフトボール協会二十五周年にもあたり、今日までソフトボール協会を育てていただいた方々に感謝し、シニア大会（五十八歳以上）を開催しました。参加十二チーム二三五名により白熱したプレーが展開されました。参加されたシニアの方々から、来年も実施したいという声も聞かれ、大変好評でした。

○レクリエーションの部

・期日　十月二十六日
・会場　市民体育館
・特別企画　レク協加盟九団体が、午前中一堂に集い、開会行事やゲームを行いました。ゲームは、種目の枠を越え、指や頭を使ったり、敏捷性を競ったりして笑いとともどいのなかで楽しく展開され、気分が高まりました。そして、午後からは、種目別に会場を市民体育館周辺に移し、一斉に大会が開催されました。

第50回市民体育祭参加者

	参加者					
	少年少女	青年	婦人	壮年	その他	合計
野球	0	青年・壮年		360	0	360
卓球	0	30	110	55	8	203
ソフトテニス	52	24	118	70	2	266
バレーボール	126	233	869	87	0	1315
バスケットボール	510	612	40	0	0	1162
サッカー	1248	681	47	63	0	2039
柔道	385	85	0	43	0	513
剣道	105	27	18	24	0	174
弓道	14	36	32	30	24	136
空手道	139	48	8	11	0	206
陸上競技	480	19	0	17	0	516
水泳競技	892	78	52	88	11	1121
スキー	18	48	18	62	3	149
クレー	0	7	0	31	10	48
ライフル	0	1	1	21	3	26
スケート	38	6	2	5	0	51
体操	222	0	0	0	0	222
小体連	1016	0	0	0	0	1016
中体連	5996	0	0	0	0	5996
高体連	2187	0	0	0	0	2187
レクリエーション	32	16	421	167	186	822
バドミントン	0	67	30	101	0	198
少林寺拳法	98	32	0	14	0	138
ソフトボール	0	119	273	2914	203	3509
テニス	0	600	404	54	0	1058
ボウリング	5	12	27	11	4	59
なぎなた	18	31	0	1	0	50
ラグビー	230	40	0	45	3	318
ゲートボール	0	0	0	0	400	400
合計	13811	3029	2470	4091	857	24258

付記　少年少女＝小・中・高校生
青　　年＝30歳未満
壮　　年＝30歳以上60歳
そ の 他＝61歳以上

記念式典

平成十年一月二十四日午後一時より本川越ペペ五階アトラスホールにて、川越市体育協会創立五十周年記念式典が六百五十名を越える参加者のもと盛大に行われました。

第一部の記念式典では、物故会員への黙祷から始まり体育協会会長の挨拶、来賓の川越市長舟橋功一様、市議会議長石川良三郎様、川越市教育委員会教育長大久原秀雄様からの祝辞に続いて、記念事業『プロ野球OB会による少年野球教室』『市民体育祭特別事業』『川越市・川越市議会へスポーツ健康都市宣言を求める陳情連動』『体育協会五十周年記念誌の作成』の発表が行われ、また、これまでの功績に対し体育協会役員や各加盟団体の理事に感謝状が授与されました。同時に平成九年度の体育功労者十六名、優秀選手二百二十一名が表彰されました。

引き続き行われた第二部の記念スポーツ講演会では講師に広岡達朗氏を迎え、『成功への羅針盤～我が野球人生』と題する話に、参加者全員が熱心に聞き入っていました。

祝賀会

平成十年一月二十四日午後五時から川越プリンスホテルにて川越市体育協会創立五十周年記念祝賀会が体育協会加盟団体及び来賓四百四十名を越える参加者のもと盛大に行われました。

関口会長の挨拶、来賓の川越市長舟橋功一様の挨拶に続いて体育協会理事長より来賓紹介が行われ、舟橋市長と関口会長の両名による鏡割式に続き、川越市スポーツ振興審議会会長石川隆二様の乾杯で祝賀会が始まりました。

途中、アトラクションで生田流箏曲「牧之段玉京麗社中」による演奏が約二十分間行われ、美しい琴の音に出席者一同しばし酔いしれました。

各加盟団体の代表者が互いに交流を深め、五十年の歩みを振り返りながらの和やかな歓談となりました。また、参加者全員による万歳三唱は五十一年目へのスタートへとつながるとても力強い響きとなって、会場全体をつつんでいました。

記念誌

「五十年に感謝し、継承から創造へ」

体育協会創立五十年を記念して、半世紀の歩みを先人の築いた伝統、功績に感謝し「五十年に感謝し、継承から創造へ」を念頭におき記念誌を編集いたしました。

編集発刊に当たっては、発足以来の貴重な総会資料が保存されており、これを頼りに五十年の先人の築いた足跡をまとめ、関係各位のご協力を得て去る平成十年一月二十四日に発行することができました。

編集の主な内容を示すと左記のようになります。

◆歴代会長の紹介

◆体育協会関係資料（一）

市社会体育行政のあゆみ

体育協会の発足と発展

体育協会の五十年の歩み

体育協会予算の変遷

体育協会役員年次一覧

◆体育協会関係資料（二）

会則・表彰規定・加盟規定

県・市体育功労者一覧

◆体協苦楽五十年（座談会）

・むかし・いま・これから

・「輝く伝統を活かし、新時代に対応した活動展開へ」

◆栄光への道

本市代表として世界、全国大会で栄光をおさめた個人、団体の紹介

◆体育協会の主な主催、主管行事等

市民体育祭の発祥と発展

スポーツ指導者の養成

川越ウォークソン大会

広報「スポーツ川越」と川越のスポーツ

◆思い出のアルバム…写真集

昭和二十年代より、目で見る体協のあゆみとして

◆体育協会加盟団体のあゆみ

加盟二十九団体のあゆみと活動状況等の紹介

編集委員としては、不慣れのため五十年の歳月を積み重ねた伝統ある体育協会のあゆみを十分にお伝えすることができませんでしたが、この記念誌が社会の変化の激しい新時代のスポーツ振興に、そして市民生活の活性化に少しでもお役に立てればと願っています。なお、記念誌閲覧希望の方のためには、市立図書館に蔵書をお願いしてあります。

スポーツ講演会

一月二十四日、西武本川越ペペアトラスホールにおいて、体育協会創立五十周年記念行事の第二部として、スポーツ講演会が六百名近くの参加者を得て盛大に開催されました。

講師にはプロ野球界で長年にわたりご活躍中の広岡達朗氏をお招きし、先生の豊富な経験から培われた野球人生について話されました。

講演の一部を紹介します。

○日本にも必要なGM

現在のプロ野球界では、フロントがいい選手を集めて「これで勝ってくれ」と監督に依頼している。いい選手を当てたつもりでも負ければ全部が監督一人の責任になってしまう。昨年の長嶋監督がそうだ。巨人軍は三十億を上回る補強をしたが、その必要があったのかどうか。監督なら誰しも、いい選手ならいくらでも欲しいものだ。そうしたことを総体的に見て、コントロールして判断するのがGM（ゼネラルマネージャー）なのだ。

だから、昨年の巨人は、長嶋監督だけの責任ではなく、フロントも同罪であり、アメリカならば明らかにGMの責任となる。日本の場合は誰が責任をとるか不明確だ。これからの日本の野球にはGMの存在が必要だ。

○一点絞りこそ上達の近道

アメリカへ四年四ヶ月勉強に行った。そこは、権利と義務の世界で、誰にでも平等にチャンスを与えていた。また、スポーツの基本についても勉強させられた。それは、基本を繰り返し、繰り返し続けることで、自然に頭や体に馴染ませ覚えさせることだ。

その後帰国し、スポーツ紙に原稿を書いたことがあった。その時に教えられたことに「一点絞り」がある。あれもこれも書きたい時に、その中のどれか一点を重視して絞り込んで書くことをいう。ヤクルトの監督を引き受けた時にこの一点絞りが実に役立った。当時のヤクルトは課題が山積していたが、野球のカギを握っているのは投手であるから練習方法を変えながら投手陣の整備をした。

選手にあれこれ教える前に一人一人の長所と短所を見極めながら何か一つに絞り込んだポイントを指導してみてほしい。いつの日か必ず他の所も含めて総体的にレベルアップすると思う。

○基本の繰り返し

私が守備に開眼したのはプロ四年目のことだった。カージナルス二塁手ブレイザーの守備を見てからのことだ。彼の守備の第一印象は下手のように見えた。ところがよく見てみると、派手さはないが実に堅実で安心感のある基本プレーそのものだった。

誰でも必ずいつかは上手になるものだ。結果のでない選手は、まだ手順を知らないだけで、根気よく繰り返し、正しい手順で教えることが大切だ。

○全体食

どんなに筋肉がたくさんついていても血液がきれいでなければ、身体は本来の機能通りには動かない。頭を使ったり疲れたりすると血液は濁る。これをきれいにするには、まず睡眠、次が食べ物だ。全体食といって、米より玄米、魚なら切り身よりも全部を食べられる小魚を食べるほうがよい。

☆　☆　☆　☆　☆

紙面の都合で、概略のみ紹介しましたが、当日聴講された方に感想を聞いてみました。

広岡氏

「成功への羅針盤～我が野球人生」を聴講して

野球連盟　川路州隆

広岡先生の話を聞いて一言感想を述べてみたいと思います。

先生は確か広島県呉三津田高の出身で、この高校は進学高で、野球は無名の高校だと思います。（こんなことを云うと先生にこの野郎と云われるかもしれないが）その先生が名門早稲田大学から伝統ある巨人軍に入団され、名ショートとして大活躍されたわけですが、話の中でプロ根性を目一杯発揮され、人の技を盗んであの位置まで進まれたと思います。

その先生の最初の言葉で、

「人を使うときには好き嫌いで使うな。」

と云われてましたが、実は私自身講演の一ヶ月前、ある所で、少年野球の指導者の前であいさつをする機会がありまして、その席で全く同じようなことを話しました。即ち、

「選手は上手な人を使いなさい。人情で選手を起用すべきではないですよ。」

と云ってから、父兄から文句がくるのではないかと不安でしたが、広岡先生の話を聞いた時は、（ああ良かった。話は間違っていなかった。）と、安堵しました。

しかし、下手な人間に対しては、根気よく正しい手順で、目的意識を持たせて指導していくのが指導者の責務だと思います。そこで、ちょっと気になるのが、先生は一・二年では駄目と云われていましたが、確かにそうだと思います。そこが、プロとアマチュアとの差でプロはその道で生活していくわけですので、ある程度の年数をかけても良いかと思いますが、アマの場合、特に少年野球、中学生の場合には時間がないので無理も強いる場合もあるかと思いますが、そこで先生が云われている『一点絞り』が大事になるのではないかと思います。一人の人間に短期間で五つも六つも教えることは不可能だと思うし、また選手もすべてを習得できるとは思えない。そこで、ある一点に絞ってそれを徹底して指導することが重要ではないかと痛切に感じさせられました。

何れにしても、プロ・アマに関わらずスポーツでは、指導者の指向が選手に及ぼす影響は非常に大きいものがあります。もっと気を引き締めるべきだと思いました。

最後に云われた、今日一日、怒らず、怖れず、悲しまず、正直、親切、愉快に、力と、勇気と、信念をもって生活し、指導にあたりたいと思っています。

体育功労者・優秀選手　表彰式

一月二十四日、体育協会創立五十周年記念行事のなかで、式典に続き平成九年度川越市体育功労者並びに優秀選手表彰式が盛大に開催されました。

表彰は、舟橋川越市長より、本市体育・スポーツの振興に長年にわたり貢献され、その功績が特に顕著な方に「体育功労賞」が贈られ、続いて、郷土を代表し、各地で開催された全国大会等で活躍され、好成績をおさめた選手等に「優秀選手賞」が授与されました。

〈体育功労賞〉

名誉ある体育功労賞の今年度の顕彰者は、五十周年を記念して十六名の方々となりました。

芦沢　紀雄（野球連盟）
小川　雅利（卓球連盟）
川上　喜美江（ソフトテニス連盟）
田口　利子（バレーボール連盟）
鈴木　道雄（サッカー協会）
塩野　勝司（柔道連盟）
石山　資郎（弓道連盟）
飯野　眞之（水泳協会）
上野　洋之進（スキー連盟）
小原　征男（クレー射撃協会）
伊藤　禎二（ライフル射撃協会）
柏樽　信恵（中学校体育連盟）
相馬　忠雄（高等学校体育連盟）
新井　良昭（ソフトボール協会）
犬竹　晴美（ボウリング連盟）
西上　笑一（ゲートボール連合）

〈優秀選手賞〉

郷土川越の名誉を担い代表として活躍され、優秀選手賞を受賞された選手等は、二二一名となりました。

その中から、平成十六年埼玉国体で活躍する年代となる小中学生に喜びの声を聞いてみました。

ジュニアオリンピック出場

大東西小六年　金田行正選手

僕は優秀選手賞を受賞して、とてもうれしいです。今までもらった賞の中で一番大きい賞だからです。水泳は三才の時に始めました。練習は苦しいのですが、自己ベストを出せた時や競技会で入賞できた時には、水泳を続けて良かったと思います。教えてくれたコーチや応援してくれた家族に感謝し、さらに頑張っていきたいです。

全国中学校陸上競技大会出場

富士見中三年　萩原圭輔選手

走るのは今まで自分の為に走っていました。しかし今度の大会では応援してくれている人の為に走りました。遠い所、応援に来てくれた親や先生に目に焼き付くレースがしたくて無心で走りました。準決勝に出場が決まったときの一人一人の握手が忘れられません。この経験をバネにして、これからのスポーツ活動に励みたいです。

スポーツ教室

平成九年度、スポーツ教室が一般対象六種目、女性対象四種目、少年少女対象四種目の合計十四教室開催されました。

〈スポーツ教室参加者数〉

卓球	40名
テニス①	40名
テニス②	40名
スケート	41名
ターゲットバードゴルフ	10名
太極拳	27名
女性ソフトテニス	28名
女性3B体操	35名
女性ボウリング	38名
女性スイミング	40名
ジュニアバレーボール	30名
ジュニアスイミング	15名
ジュニアスケート	133名
ジュニアスキー	60名

スポーツ指導者養成講習会

第五回川越市スポーツ指導者養成講習会が川越市教育委員会・川越市体育協会の共催により、九月二十二日・二十九日・十月六日・十三日の四日間、北公民館を会場に開催されました。昨年に引き続き、「指導技術の向上をめざして」をテーマに掲げ、募集したところ七十六名の参加を得ることができました。

第一日目は、「スポーツ外傷と障害」と題し、公認スポーツドクターの原利郎先生を講師にお迎えしました。突然のアクシデントであるスポーツ外傷とその基本的な応急処置、非直接外力によるスポーツ障害の一般的に罹患率の高い小・中学生と中高年者にみられる部位とその原因について、具体的なお話をしていただきました。

第二日目も、第一日目に引き続き、原利郎先生に「スポーツ外傷と障害」についてご講義いただきました。野球、テニス、サッカー等の種目の違いにより、特徴的なスポーツ障害として肩、肘、腰、膝等の部位に現れるしくみについての専門的な内容を中心にお話いただきました。また、後半は、受講者が日頃感じている疑問に答える形をとっていただき、熱心な質疑応答が展開されました。

第三日目は、「これからの生涯スポーツ」と題し、前埼玉県教育委員会体育課社会体育係長の白根文博先生をお迎えしました。スポーツの実施状況やスポーツ振興に対する要望等の現状を踏まえ、生涯スポーツを推進するために、スポーツ施設の整備・充実、スポーツ指導者の養成・確保・活用、生涯スポーツ振興事業の展開、スポーツ団体の育成・支援、地域スポーツクラブ育成事業等の視点からたくさんの資料をもとにお話をいただきました。

第四日目は、昨年に引き続き、東京家政学院短期大学より吉田博幸先生をお迎えし、「スポーツ活動とエネルギー消費」というテーマでご講義をしていただきました。脂肪は無尽蔵に体に蓄えられるものであり、その結果、コレステロールと血圧の問題が生じるが、運動により明らかな改善がみられるなど、スライドを使って、視覚的に理解することができました。

三名の講師の熱のこもったご講義により、受講者の方々も熱心に受講されていました。

第16回 川越ウォークソン大会

写真コンテスト最優秀作品「家族そろって」（田中　義則さん撮影）

十一月三日、文化の日の好天のもと、「第十六回川越ウォークソン大会」は、川越運動公園陸上競技場に、県内外一、七八二名の参加者を得て開催されました。

「正しく、美しく、速く」をテーマにしたこの大会も、第十一回大会以降参加者の減少が目立つようになりました。昨年の第十五回記念大会は、過去最少参加数となってしまいました。

この反省に立って、本年度は、企画・立案の段階から、実行委員会、並びに総務、競技両部会で、開催期日、会場及びコースについてかなりの検討がなされました。また、競技の部（男子20㎞、女子10㎞）の存廃や参加層の問題（一般の方々に今後の焦点を当てていくのか、次代を担う小・中学生の参加を促していくのか）など話し合いました。結果として、現状を維持しながら、新しい方策を打ち出していくこととし、次のことを実施するようになりました。

1　大会の性格の明確化

従来、競技会的なイメージに受け取られがちだった大会をもっと気軽に参加できるものとして、「健康ウォーキング」というテーマを全面に出す。

2　パンフレットの作成・配布

右の趣旨をご理解いただくため、〝エンジョイウォーキング〟のレイアウトを盛り込んだパンフレットを作成し、戸別に配布する。また、のぼりも立てる。

3　アンケートの実施

特に、会場・コース・期日等について、フリーライティングしていただく。（申込時に提出）

大会の参加者は、昨年に比べ二百余名増え、一応の盛り上がりは見られましたが、まだまだの数字です。種目では、親子の部が回復しました。

ちなみに、アンケートの主なものを要約してみますと、「旧交を温める一年一回の大会を楽しみにしている」「高年齢の健康管理にとてもよい」など大会の趣旨に賛意の方が多く、会場等については、「整っていて、明るく、使い易い」「コースも歩きやすく、緩やかなアップダウンがあって良い」「大会運営（役員）も苦労され、感謝している」と激励の言葉もいただきました。

検討課題として、会場・コースについては、「会場が遠い。交通の便も悪い」「コース途中が狭い。広い車道を片側規制できないか」「『とき丸くん』にふさわしい町並みコースを歩きたい」、また期日については「スリーディマーチと重ならない日に」などの意見がありました。その他、「年齢区分をもう少し細かく」「事前講習会の開催を」「スタイル賞を増やして」などのご要望が出されていました。これらを次年度への課題とし、今までの実績をふまえながら、新しい方向を見出すべく努力していきたいと思います。

大会各種目の結果

■競技の部男子（20㎞）

1位　遊馬健一　1時間36分22秒

■競技の部女子（10㎞）

1位　荒井裕子　56分12秒

■最優秀スタイル賞受賞者

（一般男10㎞）小川清一郎（一般女10㎞）星野郁子（一般男5㎞59才以下）長谷川太一（一般女5㎞59才以下）外舘幸（一般男5㎞60才以上）栗原忠一（一般女5㎞60才以上）高橋芳江（小学男）猪鼻克憲（小学女）小池香織（中学男）嶋貫徹（中学女）間仁田稍（親子）大畑幸子・拓人

■シルバー賞（80才以上）岡田健次・佐藤十五郎・杉田作三・吉野廣佑・粕谷武男・宮崎義信・室岡勝・猪鼻寿之・木村正紀・武田隆治・石川ミネ・谷村マスミ・戸田やま　以上敬称略

体育協会加盟団体一覧

平成９年度

団体	会長	理事長	体協理事	連絡先
野球連盟	伊藤義郎	川路州隆	川路州隆	
卓球連盟	関根一夫	*	須賀郁子	
ソフトテニス連盟	松本寛	大野明	大野明	
バレーボール連盟	大谷武史	川崎勇次	宮崎豊	
バスケットボール連盟	山下文司	加藤裕	小久保進	
サッカー協会	金子勇二	鈴木道雄	吉原尊男	
柔道連盟	荻野政雄	半田孝	半田孝	
剣道連盟	藤田信明	浅田典生	新井進	
弓道連盟	鈴木哲郎	石山資郎	鈴木哲郎	
空手道連盟	柴野陽一	恩田昭	遠藤京二	
陸上競技協会	浅倉正夫	萩原要	萩原要	
水泳協会	江守秀男	高野慎三	山口智也	
スキー連盟	関口紘三郎	小笠原健一	小笠原健一	
クレー射撃協会	栗原博司	小原征男	保志名勉	
ライフル射撃協会	村田泰次	大野充	小菅泰平	
スケート連盟	鈴木忠男	須賀憲	須賀憲	
体操連盟	岩井徳十	澤田精一	森賢子	
小学校体育連盟	吉澤操	藤田貴訓	関根祐一	
中学校体育連盟	吉田満	西田隆治	野沢和也	
高等学校体育連盟	近藤正己	浅井大忠	坂上宣久	
レクリエーション協会	岡野安夫	小山久子	小山久子	
バドミントン連盟	田嶋毅嘉	小川司	小川司	
少林寺拳法協会	矢島隆夫	*	湯谷憲一	
ソフトボール協会	斉藤治夫	関根友巳	関根友巳	
テニス協会	矢澤肇雄	松本政之	荒井秀樹	
ボウリング連盟	山口裕	渡辺美千子	渡辺貞夫	
なぎなた連盟	藤田信明	宮本典子	宮本典子	
ラグビーフットボール協会	杉浦邦之介	岸田政明	岸田政明	
ゲートボール連合会	郷田秀利	*	小林充	

埼玉体育賞受賞者

◎知事特別賞
伊藤　博義（川越商業高教）

◎栄光賞（栄光旗）
星野女子高校ソフトボール部

◎功労賞
金子　勇二（体育協会推薦）

◎優秀選手賞
・伊藤　博義（川越商業高教）
全日本ユース女子監督
ユース女子アジア大会優勝
・星野女子高校ソフトボール部
全国高等学校総合体育大会
優勝

◎野口記念体育賞
楽　直子（星野女子高校）

◎県民総合体育大会
市町村対抗（市の部）
川越市　男女総合五位
男子総合四位

おめでとうございます

編集後記

当協会創立五十周年記念として、本号では記念事業関係の特集を組みました。多くの皆様にお読みいただければ幸いです。

終わりに、お忙しい中にもかかわらず、快くご寄稿くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。